

第 2 期

海津市国民健康保険保健事業実施計画 (データヘルス計画)



平成 3 0 年 3 月

健康福祉部

保険医療課

目次	
第1章 計画策定の概要	1
1. 計画策定の背景と趣旨	1
2. 計画策定の目的	2
3. 計画の位置づけ	2
4. 計画の期間	2
5. 計画の基本方針	2
第2章 海津市国民健康保険の現状	4
1. 海津市人口と被保険者数の推移	4
2. 被保険者構成	5
3. 高齢化率	6
4. 平均寿命	8
5. 健康寿命	6
6. 出生率並びに死亡率（人口千対）	6
7. 医療供給体制（人口千対）	6
8. 産業構成率	6
9. 死因構成	8
第3章 海津市国民健康保険の医療と健診	10
1. 海津市国民健康保険における医療費の状況	10
2. 医療費の割合	10
3. 疾病別医療費の状況	12
4. 男女別年齢別生活習慣病の状況	13
5. 特定健康診査の受診者数及び受診率の推移	14

6. 特定健康診査受診者と医療	15
7. 特定健康診査の結果・分析（平成28年度結果より）	16
8. 生活習慣	20
9. 特定保健指導の実施状況	22
第4章 介護の状況	23
1. 介護認定者の状況	23
2. 介護認定者における有病状況	23
第5章 保健事業の状況	24
1. 保健事業の実施状況	24
第6章 医療と健診結果からみる課題	28
1. 健康課題	28
2. 保健事業の取り組みからの課題	29
3. 海津市における現状課題のまとめ	29
第7章 目的・目標及び保健事業の実施内容	30
1. 最終目的	30
2. 重点保健事業	30
3. 保健事業の実施	31
重点保健事業① 特定健康診査	31
重点保健事業② 特定保健指導	33
重点保健事業③ 生活習慣病重症化予防	33
第8章 計画の推進	35
1. 計画の見直し	35
2. 計画の公表・周知	35

3. 事業運営上の留意事項.....	35
4. 個人情報の保護	35
5. その他、計画策定にあたっての留意事項	35

第 1 章 計画策定の概要

1. 計画策定の背景と趣旨

これまで本市では、平成 20 年度より海津市国民健康保険特定健康診査等実施計画を策定し、被保険者の健康寿命の延伸・医療費の適正化に取り組んできました。

今後、高齢化社会が急速に進展していく中で、診療報酬明細書（以下、「レセプト」という。）や健診結果等の保有データを活用しながら、被保険者をリスク別に分けてターゲットを絞った保健事業の展開や、ポピュレーションアプローチから疾病の重症化予防まで網羅した保健事業を進めていくこと等が求められています。

近年、特定健康診査の実施やレセプトの電子化の進展、国保データベースシステム（以下、「KDB」という。）等の整備により、保険者が健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析、保健事業の評価等を行うための基盤整備が進んでいます。

こうした中、日本再興戦略（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）において、医療保険者はレセプト等のデータ分析に基づき、加入者の健康保持増進のための事業計画の作成、公表、事業実施、評価等の取り組みを行うことと方針が示されました。

これらを踏まえ、厚生労働大臣が定める国民健康保険法に基づく事業の実施等に関する指針（平成 16 年厚生労働省公示第 307 号）の一部改正が行われ、健康・医療情報を活用し、Plan（計画）－Do（実施）－Check（評価）－Action（改善）のサイクル（以下、「PDCAサイクル」という。）に沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施及び評価を行うこととされました。

本市においても、平成 28 年度に「海津市国民健康保険保健事業実施方針（データヘルス方針）」を策定し、これに沿って保健事業を実施してきました。その計画期間が終了するに伴い、国や県の新たな方針を取り入れて「第 2 期海津市国民健康保険保健事業実施計画」を策定し、保健事業の実施及び評価を行うこととします。

2. 計画策定の目的

海津市国民健康保険保健事業実施計画（以下、「データヘルス計画」という。）は、被保険者の健康課題を明確にしたうえで、効率的・効果的な保健事業を実施し、健康寿命の延伸及び医療費の適正化を図ることを目的とします。

3. 計画の位置づけ

本計画は、海津市特定健康診査等実施計画の策定趣旨を踏まえつつ、「海津市総合計画」、「かいづ健康づくりプラン」等と整合性を図り、海津市一体となった施策展開を図ります。

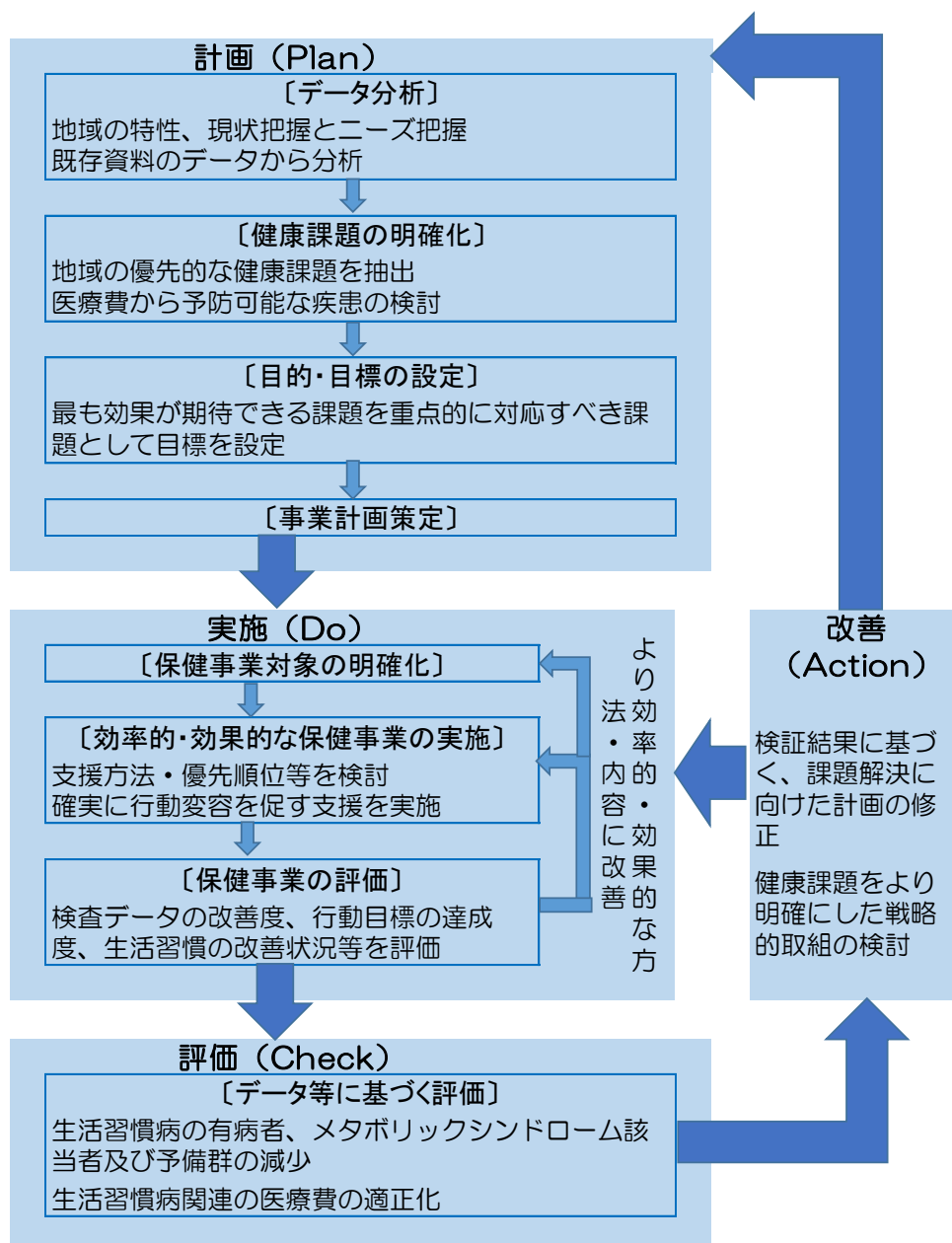
4. 計画の期間

実施期間については、関係する計画との整合性を図り、第3期特定健康診査等実施計画（2018（平成30年度）～2023年度）と一体的に推進していくことから、計画の最終年度を2023年度とします。

年 度	平成 29	平成 30 (2018)	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 以降
かいづ健康づくりプラン	第 1 次	第 2 次							次期計画
特定健康診査等実施計画	第 2 期	第 3 期							次期計画
データヘルス計画	第 1 期	第 2 期							次期計画

5. 計画の基本方針

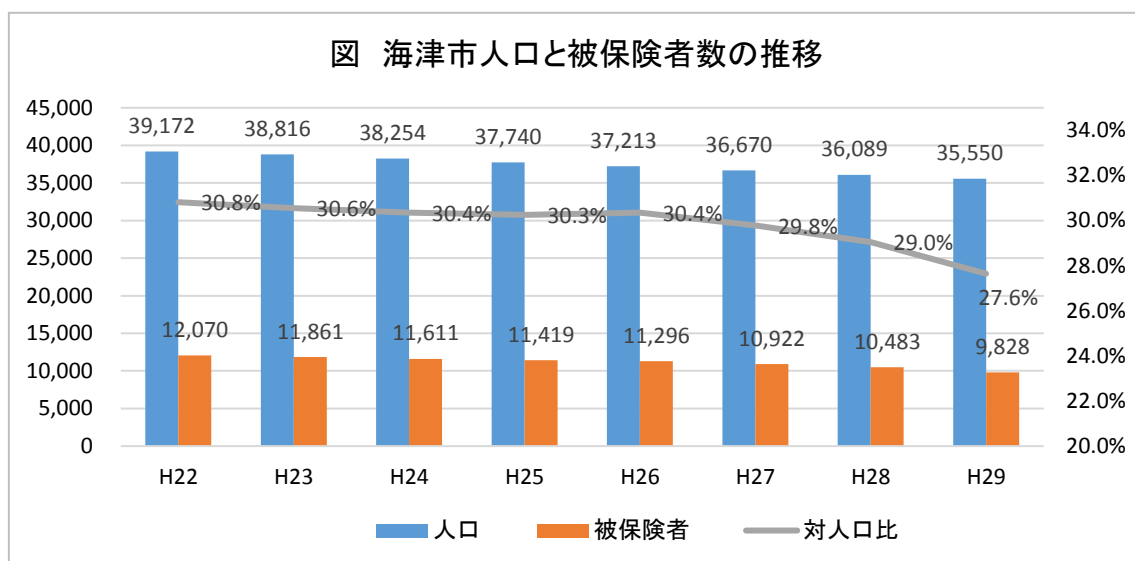
本計画では、健康・医療情報等を活用して健康課題を分析し、PDCA サイクル〈計画（Plan）⇒実施（Do）⇒評価（Check）⇒改善（Action）〉を意識した継続的な事業を実施するための計画を策定します。



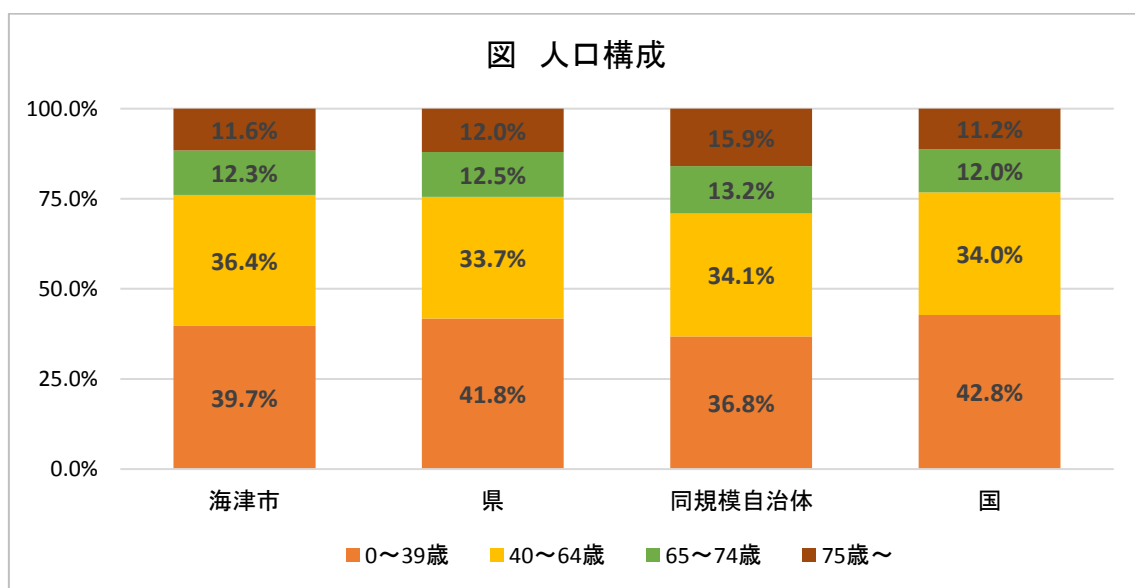
第2章 海津市国民健康保険の現状

1. 海津市人口と被保険者数の推移

本市の人口は、平成29年4月1日現在で35,550人です。人口は減少傾向で推移しており、人口の減少に比例し、海津市国民健康保険（以下、「海津市国保」という。）の被保険者も減少傾向にあり、平成29年4月1日現在で9,828人となっています。



資料 海津市人口（住民基本台帳より）、被保険者数（国保連合会帳票より）
各年度4月1日現在

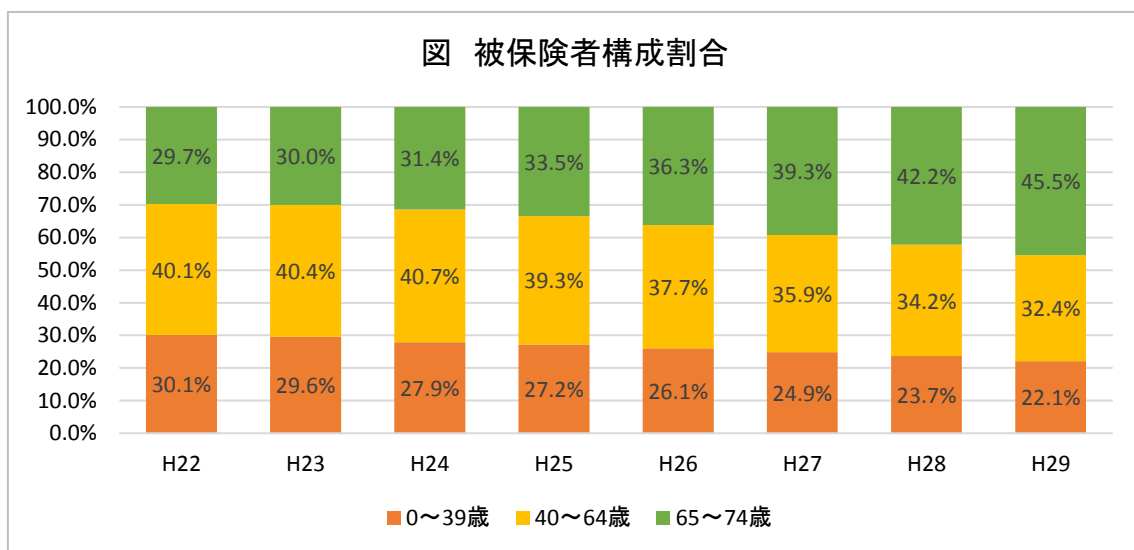


資料 国保データベースシステム（H28年度）

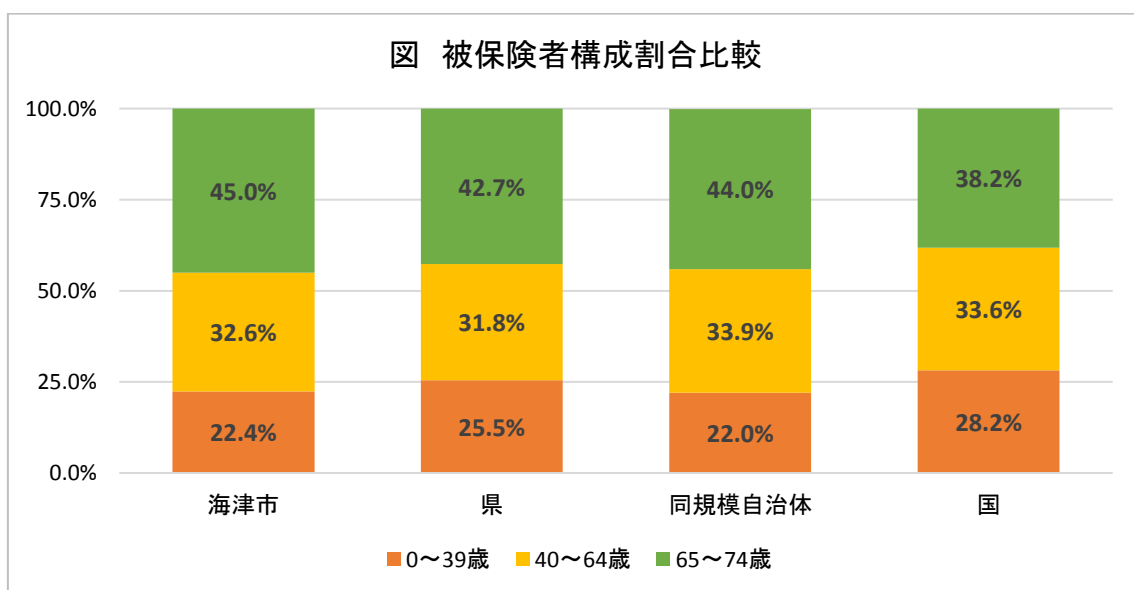
2. 被保険者構成

海津市国保加入者の世代別割合は、平成 29 年 4 月 1 日現在、若年世代（0～39 歳）が 22.1%、現役世代（40～64 歳）が 32.4%、前期高齢世代（65～74 歳）が 45.5%となっています。特筆すべきは、前期高齢世代の加入者割合であり、平成 22 年は 29.7%であったことから、加入者の高齢化が急速に進展しています。

また、被保険者構成割合を比較すると、県・国に比べ 40～64 歳の割合が低く、65～74 歳の割合が高くなっています。



資料 国保連合会帳票より



資料 国保データベースシステム(H28 年度)

3. 高齢化率

海津市における高齢化率は 23.9%で、県の 24.5%と比べると若干低くなっています。

	海津市	県	同規模保険者	国
高齢化率	23.9%	24.5%	29.1%	23.2%

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

4. 平均寿命

海津市における平均寿命は、県・同規模保険者・国と比較すると男性では高く、女性は低くなっています。

	海津市	県	同規模保険者	国
男性	80.1 歳	79.9 歳	79.2 歳	79.6 歳
女性	85.8 歳	86.3 歳	86.4 歳	86.4 歳

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

5. 健康寿命

海津市における健康寿命は、県・同規模保険者・国と比較しても同じような水準にありますが、男性は若干高くなっています。

また、平均寿命と健康寿命の差は、男性 14.2 歳、女性 19.0 歳であり、女性の期間が長くなっています。

	海津市	県	同規模保険者	国
男性	65.9 歳	65.5 歳	65.1 歳	65.2 歳
女性	66.8 歳	67.0 歳	66.8 歳	66.8 歳

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

※健康寿命は、健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間のことです。

6. 出生率並びに死亡率（人口千対）

海津市における出生率は、県・同規模保険者・国と比較すると、かなり低くなっています。また、死亡率は、県・国と比較すると、高くなっています。そのため、人口は自然減の割合が高い状況にあります。

	海津市	県	同規模保険者	国
出生率	6.5	8.3	7.2	8.6
死亡率	10.2	9.9	13.0	9.6

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

7. 医療供給体制（人口千対）

海津市における医療供給体制のうち、病院数は県と同等の状況ですが、診療所数・病床数は県・同規模保険者・国と比較すると、かなり低くなっています。特に、医師数は県の4割程度となっています。

	海津市	県	同規模保険者	国
病院数	0.2	0.2	0.4	0.3
診療所数	2.5	3.1	2.9	3.0
病床数	31.4	40.1	59.7	46.8
医師数	3.4	8.2	7.5	9.2

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

8. 産業構成率

海津市における産業構造は、県・国と比較すると、第1次産業の割合が高く、次いで第2次産業の割合が高くなっています。

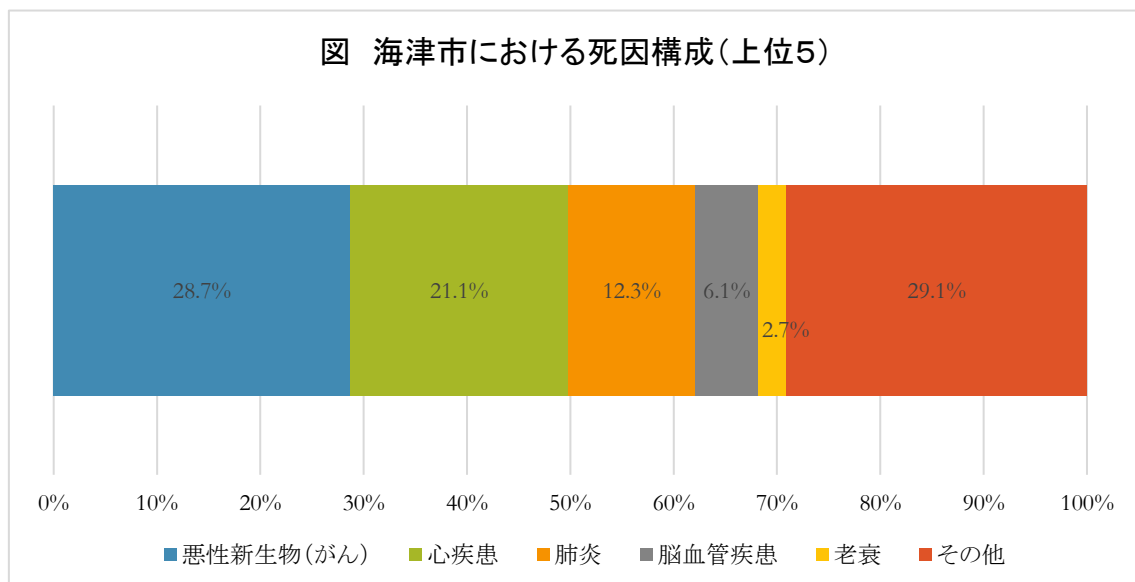
単位：％

	海津市	県	同規模保険者	国
第1次産業	7.4	3.2	11.4	4.2
第2次産業	36.8	33.6	27.5	25.2
第3次産業	55.7	63.2	61.1	70.6

資料 国保データベースシステム(H28年度)

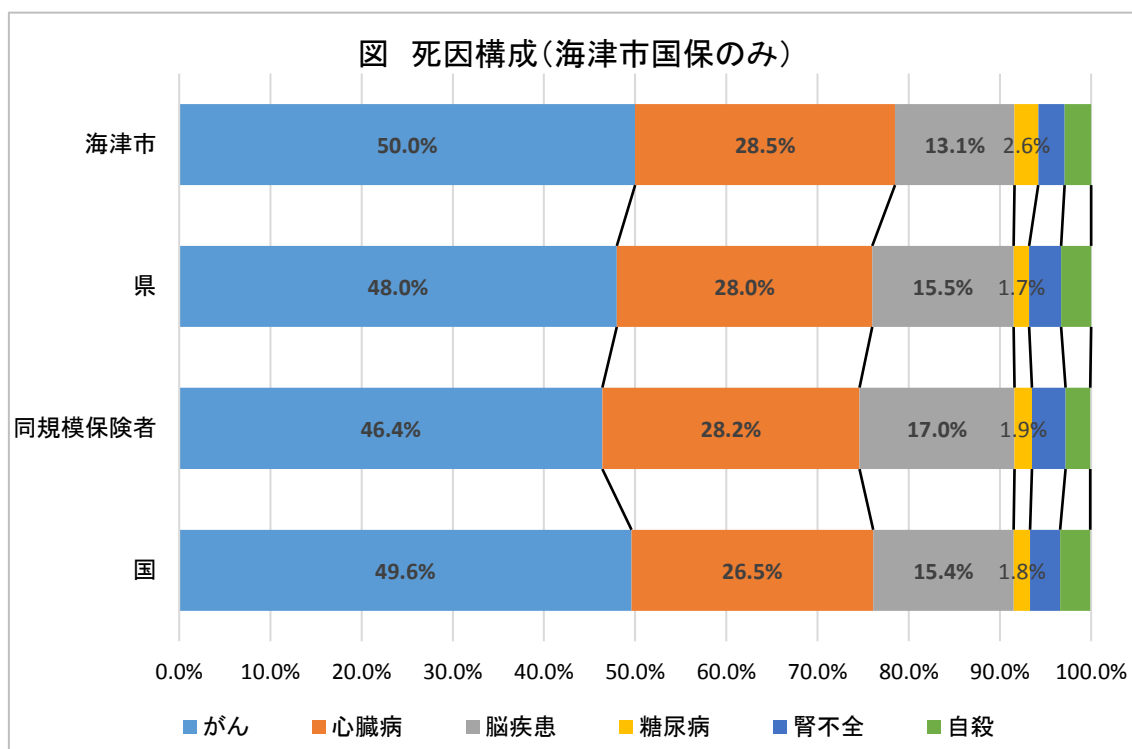
9. 死因構成

海津市の平成27年における死因は、上位から、悪性新生物（がん）、心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰の順になっています。生活習慣病（悪性新生物・心疾患・脳血管疾患）が占める割合は55.9%です。



資料 西濃地域の公衆衛生 2016

海津市国保被保険者における死因構成は、県・同規模保険者・国と比較すると、糖尿病による割合が高く、脳疾患による割合が低くなっています。

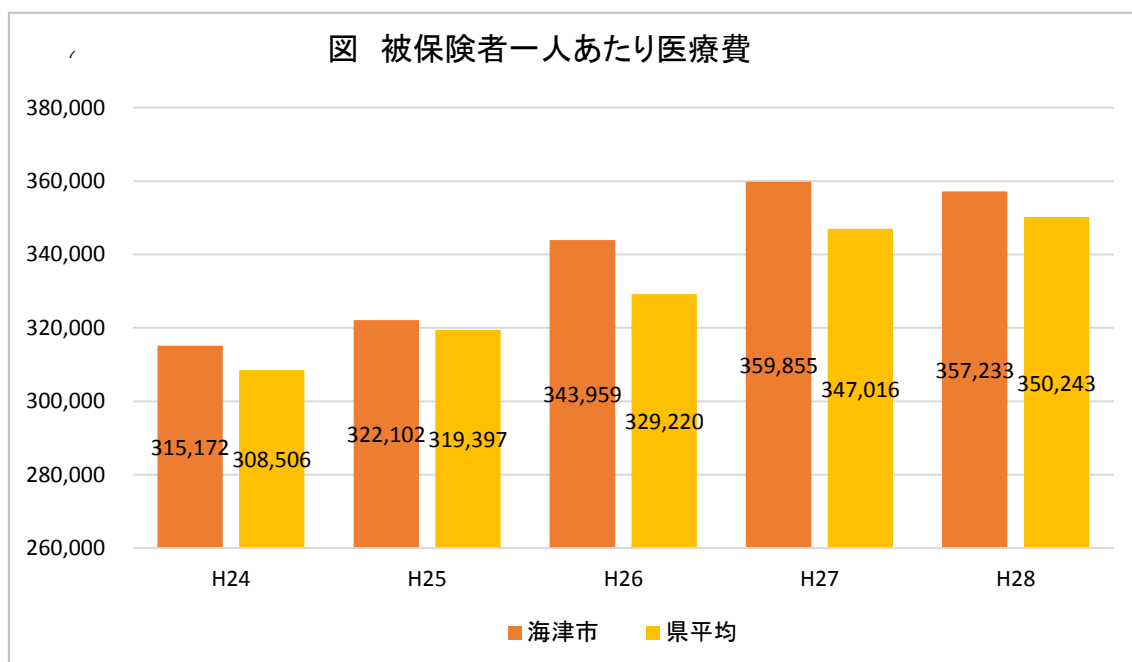


資料 国保データベースシステム(H28 年度)

第3章 海津市国民健康保険の医療と健診

1. 海津市国民健康保険における医療費の状況

海津市国保における平成 28 年度の医療費は約 36 億 6600 万円となり、前年度より下がりました。被保険者数は減少を続けていますが、高齢化の進展等の要因により医療費は増加しています。年間の一人あたり医療費は 357,233 円となり、平成 24 年度と比較し、42,061 円（13.35%）増加しています。年間の一人あたり医療費は県平均以上です。

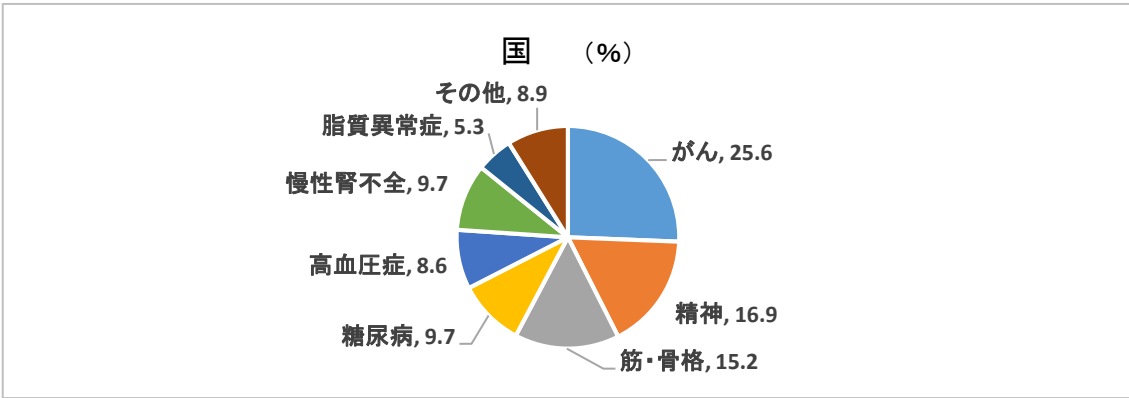
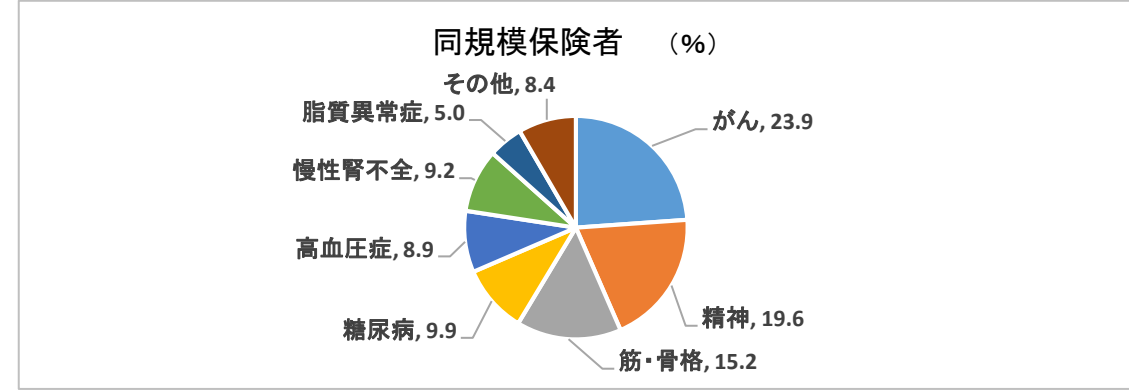
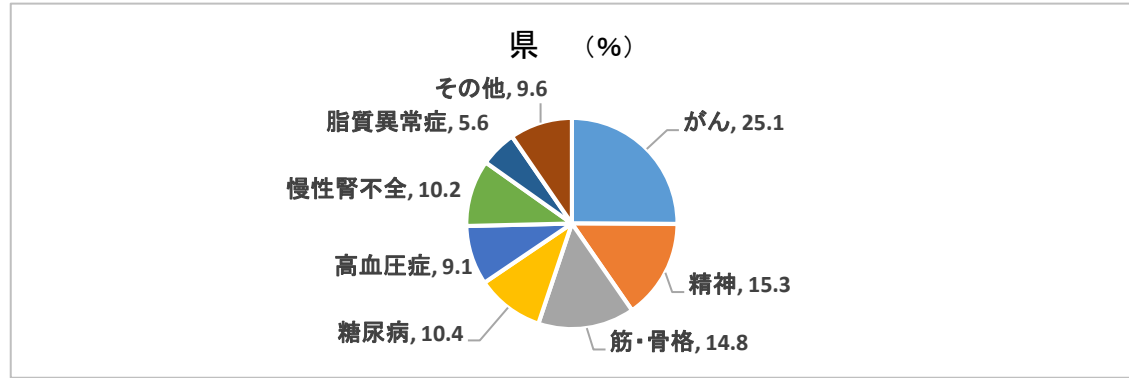
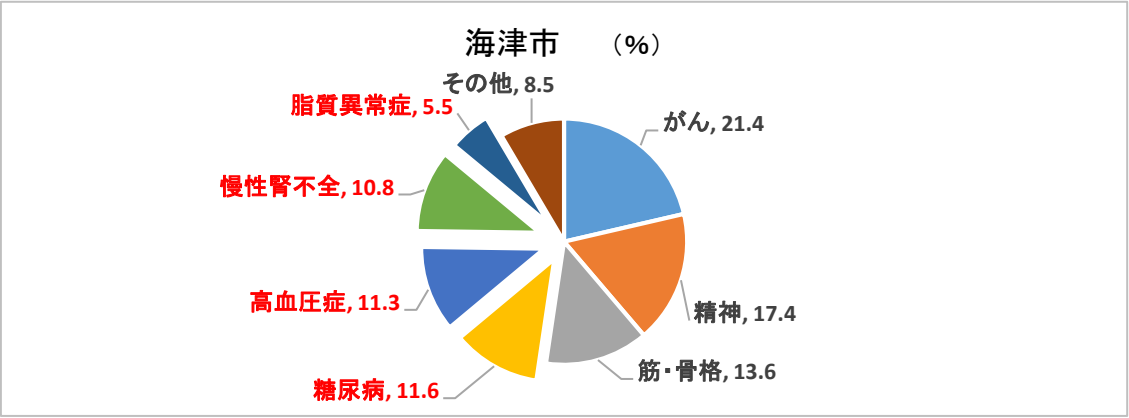


資料 岐阜県国保連医療費分析より

2. 医療費の割合

海津市国保における医療費の割合は、県・同規模保険者・国においても同様に、生活習慣病に関する疾病（高血圧症・糖尿病・慢性腎不全・脂質異常症）が大部分を占めています。医療費の適正化を図るためには、生活習慣病の重症化予防が急務となっています。

また、県・同規模保険者・国に比べ、高血圧症・糖尿病・慢性腎不全の割合が多くなっています。



資料 国保データベースシステム(H28 年度)

3. 疾病別医療費の状況

海津市国保における平成 28 年度の疾病別医療費の状況（高い順 10 疾病）をみると、入院・外来ともに生活習慣病に関連した疾病が上位を占めています。高血圧症や糖尿病等の生活習慣病の予防・重症化予防に取り組むことにより、増え続ける医療費の抑制を図ることができると考えられます。

●入院

疾病名	医療費点数	生活習慣病の関連性
統合失調症	14,134,657	
慢性腎不全（透析有り）	5,029,587	関連あり
不整脈	4,026,014	一部関連あり
狭心症	3,713,489	関連あり
肺炎	3,641,313	
骨折	3,208,132	
脳梗塞	2,932,508	関連あり
うつ病	2,759,160	
大腸がん	2,745,780	
肺がん	2,304,530	

●外来

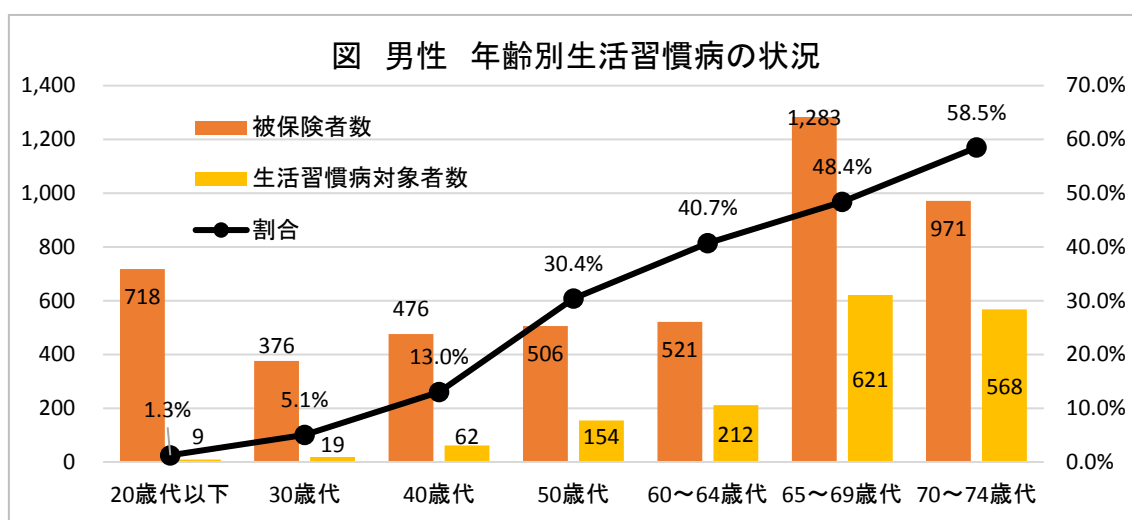
疾病名	医療費点数	生活習慣病の関連性
高血圧症	19,986,925	関連あり
糖尿病	19,849,140	関連あり
慢性腎不全（透析有り）	14,700,516	関連あり
関節疾患	10,175,966	一部関連あり
脂質異常症	9,840,744	関連あり
C 型肝炎	6,074,083	
統合失調症	5,254,586	
うつ病	5,008,060	
肺がん	4,592,656	
不整脈	3,995,472	

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

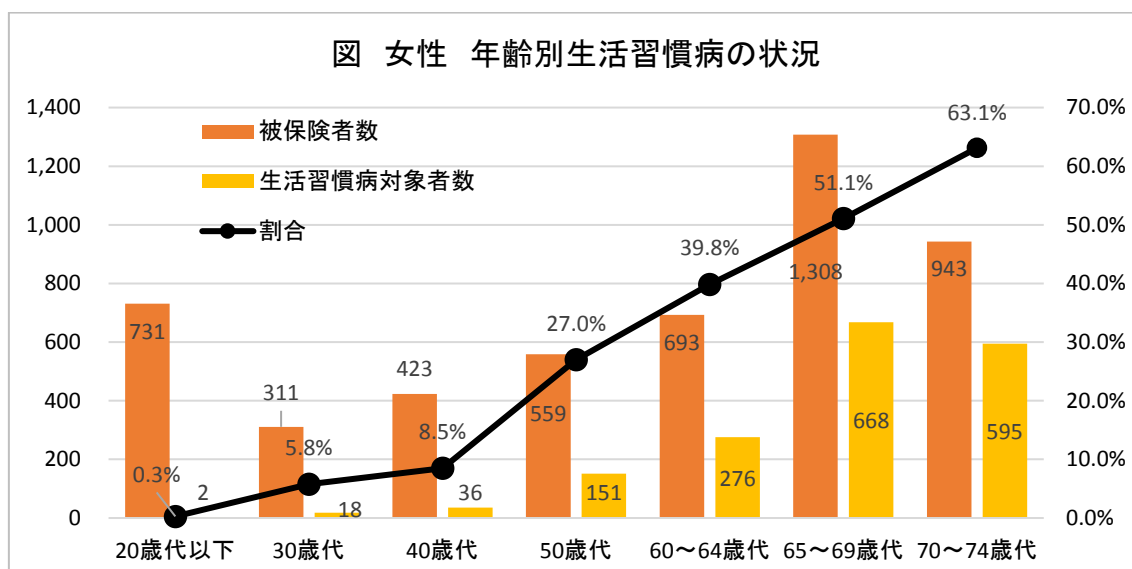
4. 男女別年齢別生活習慣病の状況

海津市国保における平成 29 年 5 月分の診療状況をみると、男性では、1,645 人（33.9%）、女性では 1,746 人（35.1%）となっており、女性の割合が高くなっています。

また、男女ともに年齢が高くなるにつれて、生活習慣病の割合は高くなっていきます。特に 70～74 歳の女性では、6 割超の人が生活習慣病と診断されています。50 歳代から急激に有病割合が増加するため、若年層をターゲットにした健康づくりと生活習慣病治療者に対する重症化予防への取り組みが重要です。



資料 国保データベースシステム(H29 年 5 月診療分)



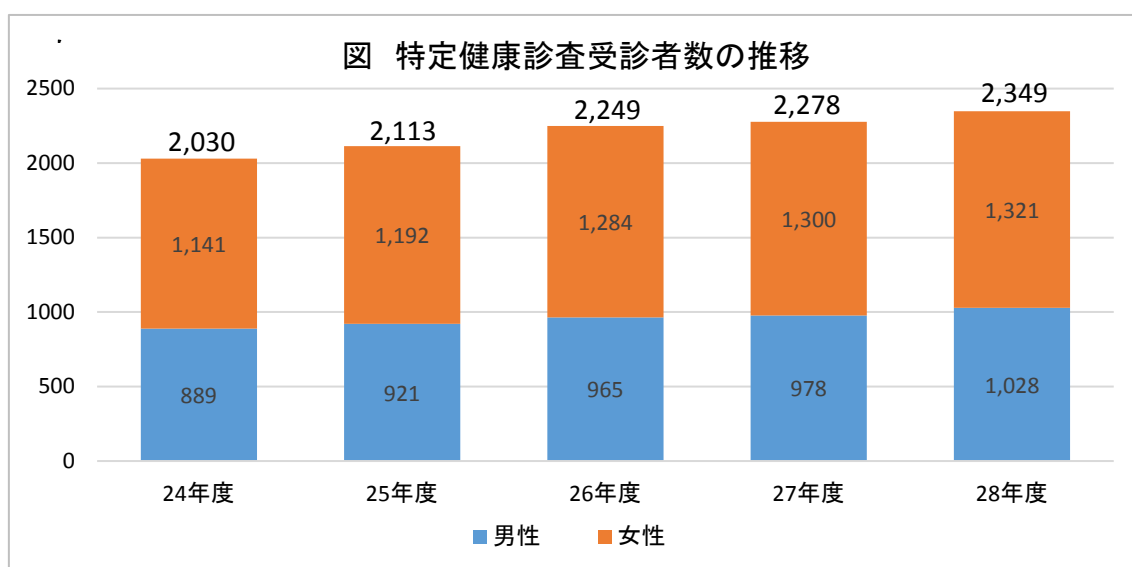
資料 国保データベースシステム(H29 年 5 月診療分)

5. 特定健康診査の受診者数及び受診率の推移

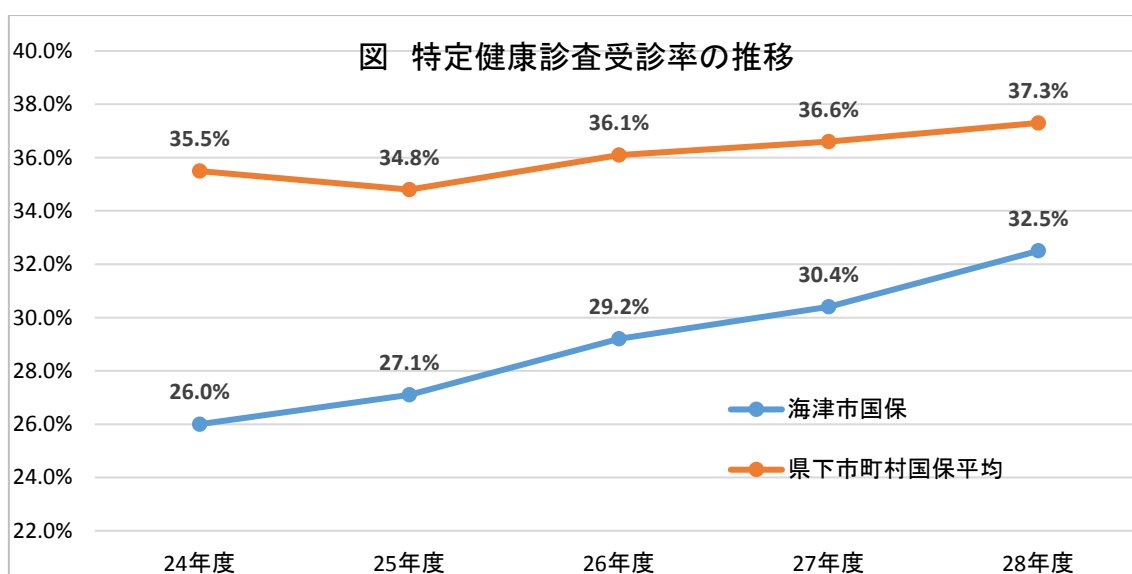
平成 28 年度における 40 歳～74 歳の特定健康診査の受診者数は、2,349 人、受診率は 32.5%となっています。毎年、受診者・受診率ともに上昇してはいるものの、岐阜県市町村国保平均と比べると、低い水準です。

男女別年齢別受診率をみると、全年代で男性よりも女性の受診率が高く、また年齢が高くなるにつれて受診率も高くなっています。

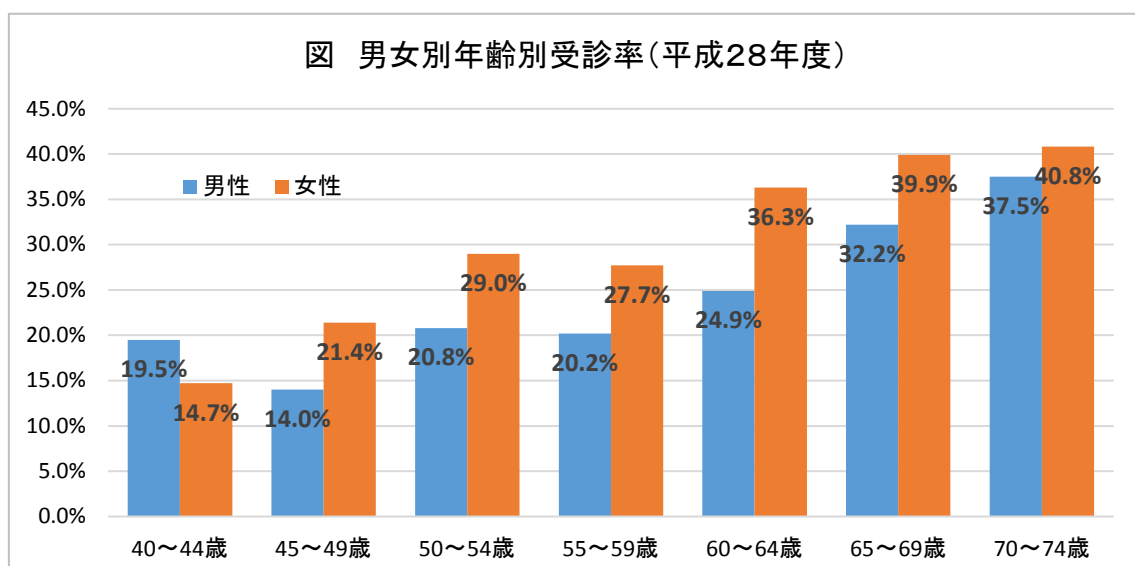
現役世代（40 歳・50 歳代）の受診率が低いので、受診率向上を図る必要があります。



資料 特定健診等データ管理システム



資料 特定健診等データ管理システム



資料 国保データベースシステム(H28 年度)

6. 特定健康診査受診者と医療

平成 28 年度における特定健康診査受診者及び未受診者の医療費の状況を見ると、海津市国保・県・同規模保険者・国ともに特定健康診査を受診した人の方が生活習慣病等一人あたりの医療費が低い状況にあります。

これは、特定健康診査を受診したことによる疾病の早期発見が考えられ、重症化予防にもつながっています。

単位：円

項目	海津市国保	県	同規模保険者	国
受診者 一人あたりの医療費	2,204	2,727	2,895	2,346
未受診者 一人あたりの医療費	12,087	12,543	12,883	12,339

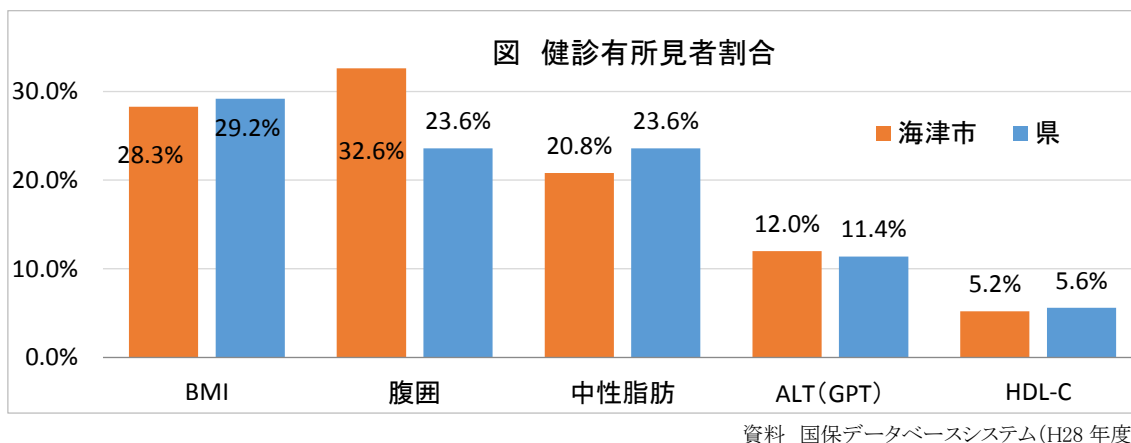
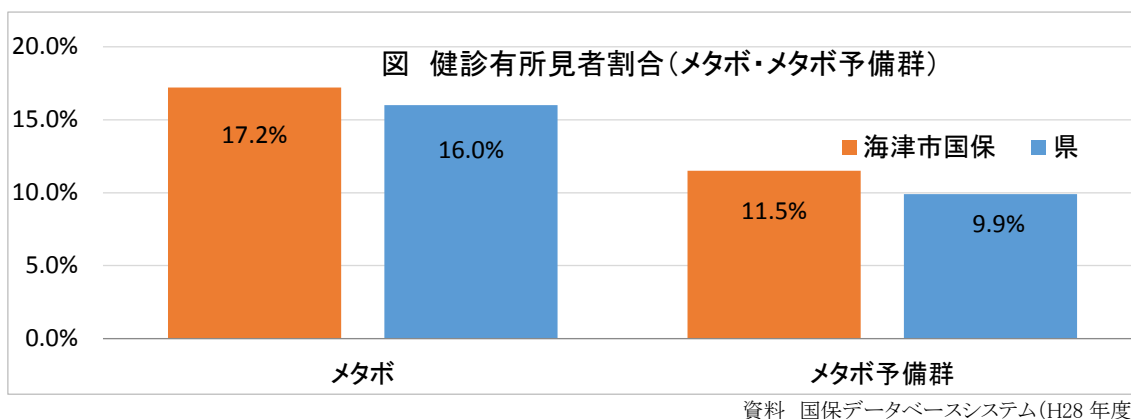
資料 国保データベースシステム(H28 年度)

7. 特定健康診査の結果・分析（平成 28 年度結果より）

①メタボリックシンドローム該当者（メタボリックシンドローム予備群）、肥満（腹囲・BMI）

健診結果を県と比較すると、メタボリックシンドローム該当者以下「メタボ該当者」という。）・メタボリックシンドローム予備群（以下「メタボ予備群」という。）・腹囲の割合が高い傾向です。

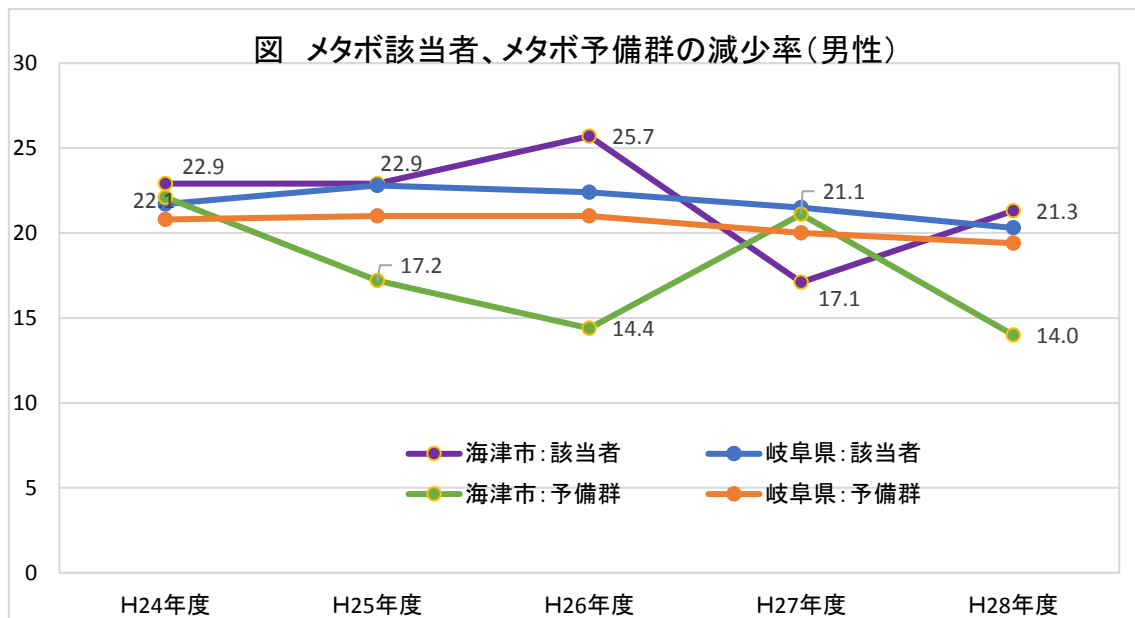
肥満は内臓脂肪の増加と関係しており、内臓脂肪の増加が糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の発症または症状の増悪につながります。



●メタボ（メタボリックシンドローム）とは・・・

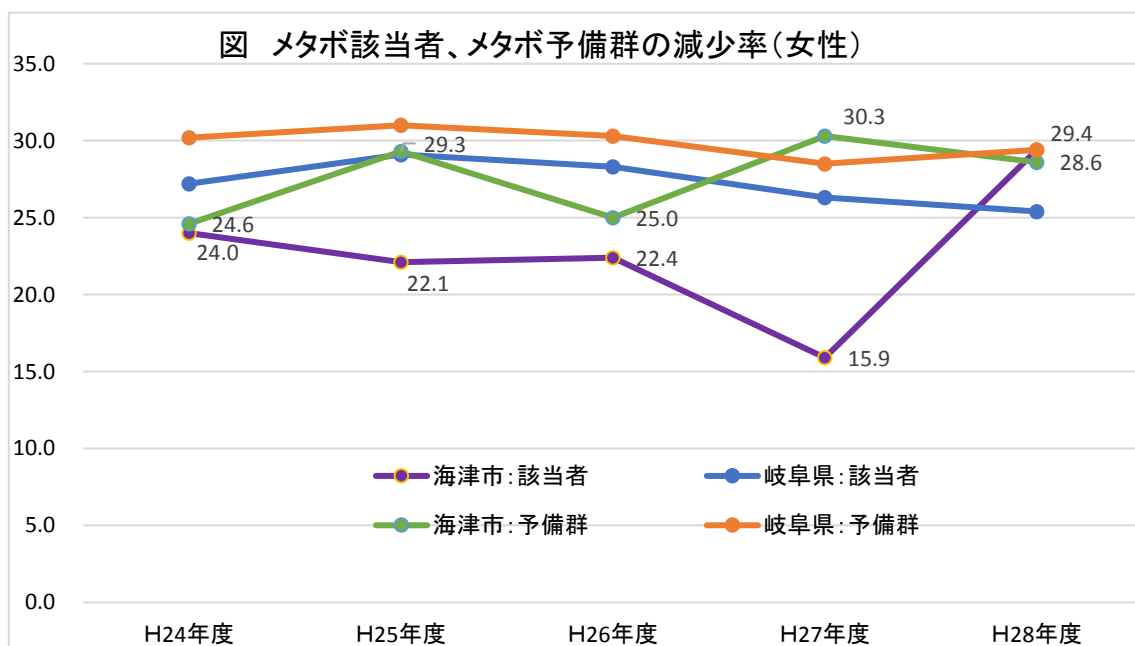
内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさり、虚血性心疾患や脳血管疾患等の動脈硬化性疾患をまねきやすい病態です。単に腹囲が大きいだけではメタボリックシンドロームにはあてはまりません。別名、内臓脂肪症候群ともいわれ、動脈硬化を飛躍的に進行させます。（厚生労働省 HP より一部引用）

男性のメタボ該当者、メタボ予備群の減少率の推移をみると、県と同様に予備群よりも該当者の方が高く、ゆるやかに減少しています。



資料 国保データベースシステム(H28 年度)

女性のメタボ該当者、メタボ予備群の減少率の推移をみると、該当者よりも予備群の方が高く、ゆるやかに増加し、平成 28 年度は該当者が予備群を上回りました。県では、該当者はゆるやかに減少し、予備群はほぼ横ばい状況になっています。

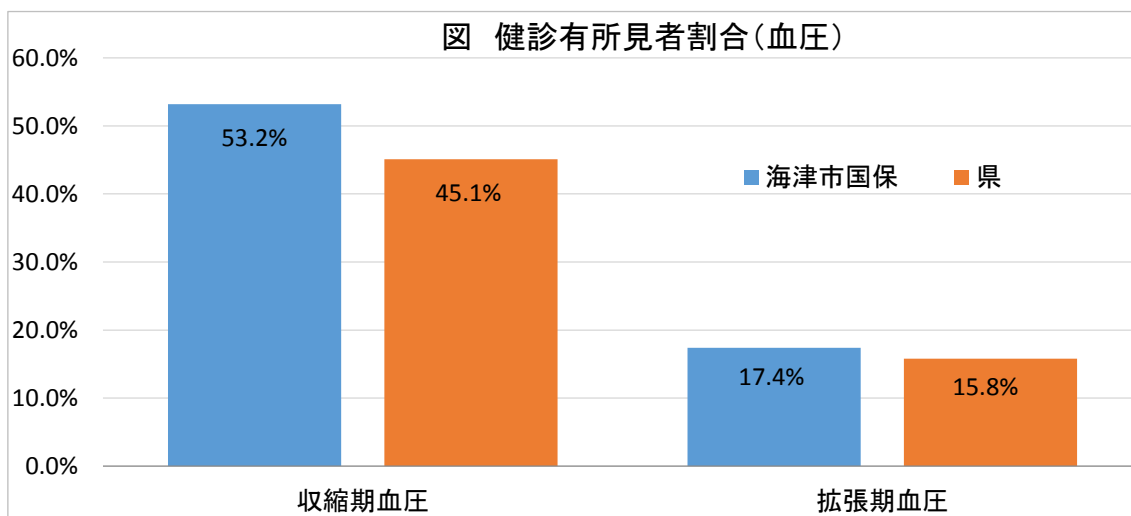


資料 国保データベースシステム(H28 年度)

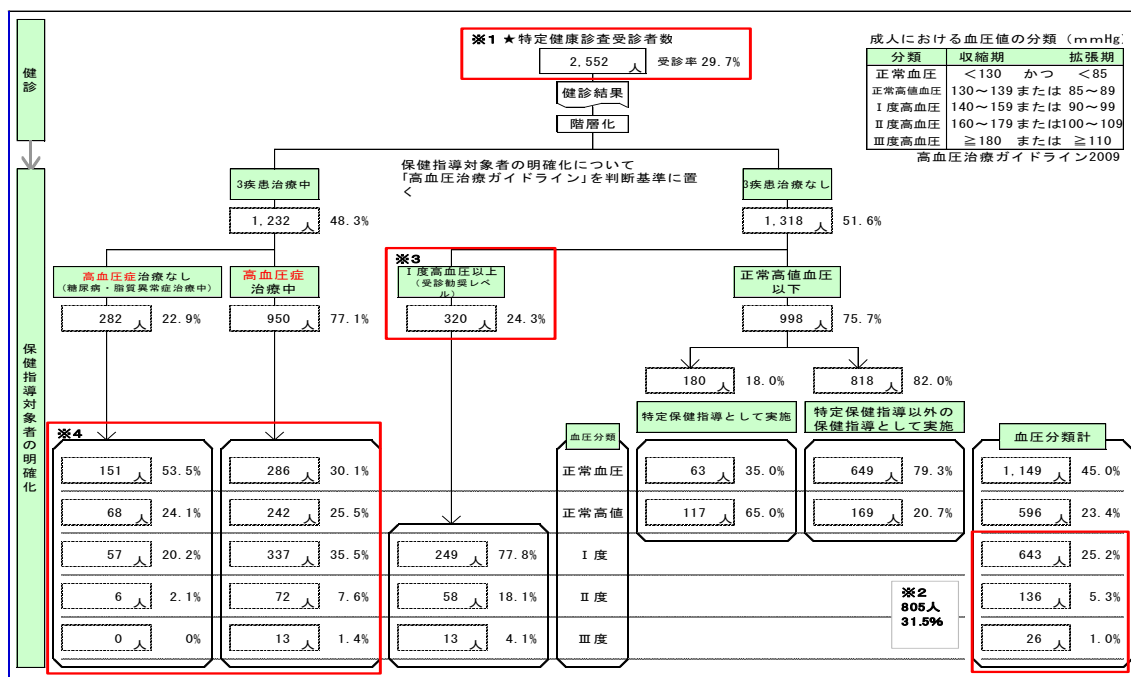
② 血圧

健診結果を県と比較すると、収縮期及び拡張期ともに、有所見者の割合が高い状況です。

全受診者（※1）のうち血圧値分類がⅠ度高血圧以上で治療が必要な人は805人で、全体の31.5%（※2）となっています。そのうち、疾患治療なしの方は320人（※3）であり、重症化予防のフォローが必要です。また、3疾患治療中の方（※4）は、医療管理及び適正医療のために医療機関との連携が必要です。



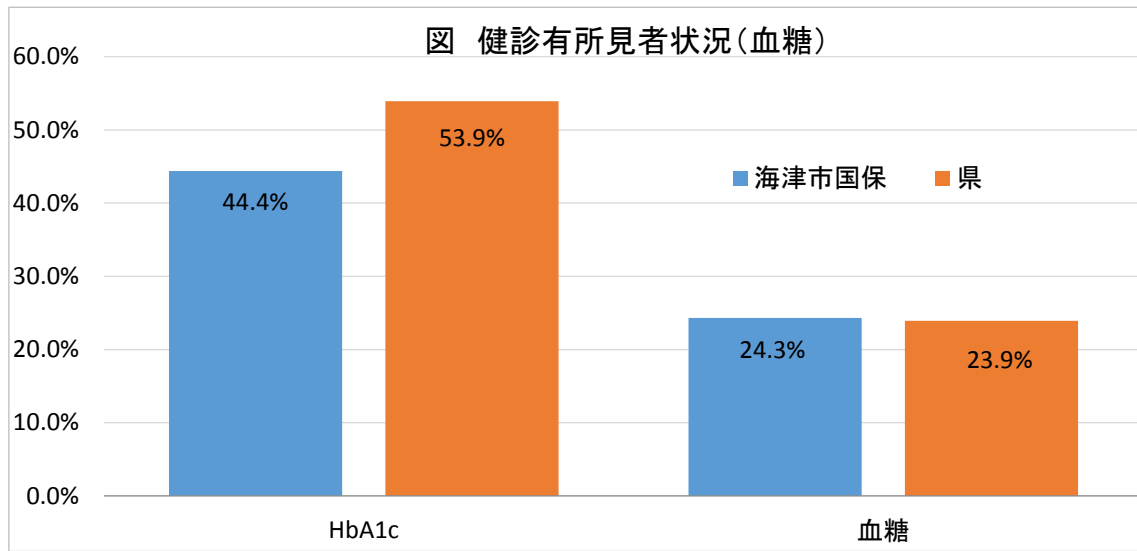
資料 国保データベースシステム(H28 年度)



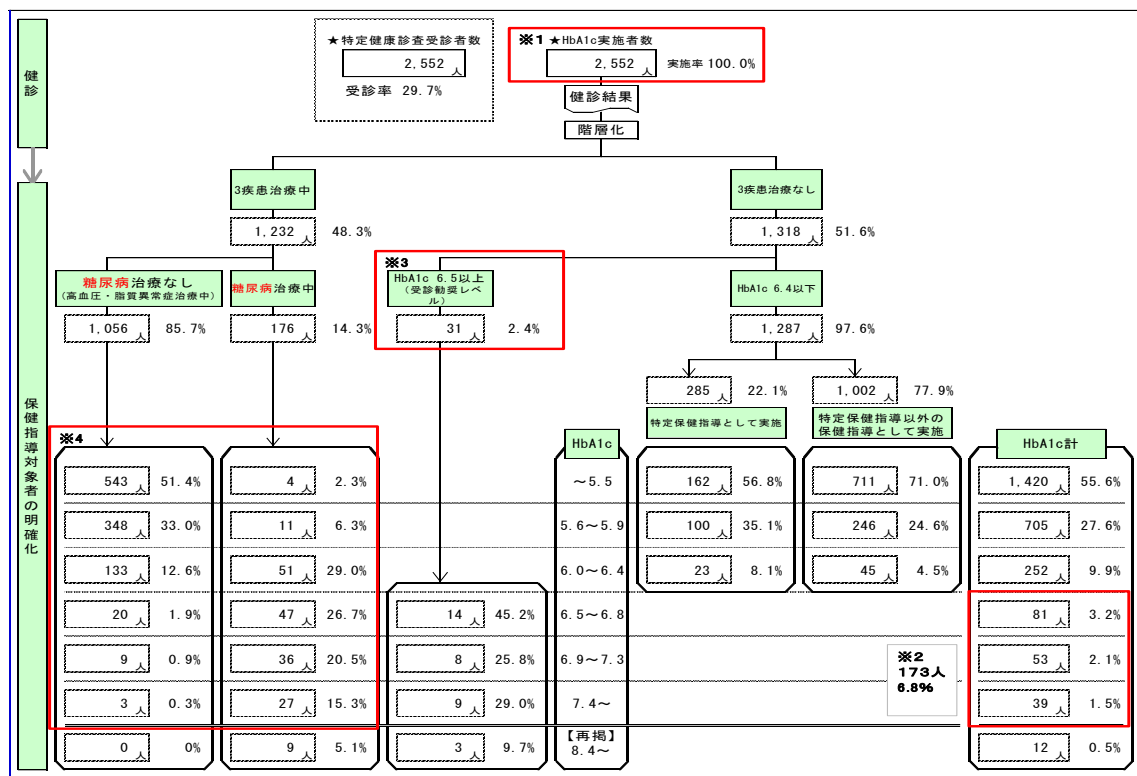
資料 健康情報データベースシステム(H28 年度)

③ヘモグロビン A1c（糖尿病）の状況

全受診者（※1）のうちヘモグロビン A1c6.5 以上で治療が必要な人は 173 人で、全体の 6.8%（※2）です。そのうち 3 疾患治療なしの方は 31 人（※3）であり、重症化予防のフォローが必要です。また、3 疾患治療中の方（※4）は、医療管理及び適正医療のために医療機関との連携が必要です。



資料 国保データベースシステム(H28 年度)



資料 健康情報データベースシステム(H28 年度)

8. 生活習慣

特定健康診査受診時の質問票調査では、県・同規模保険者・国と比較すると、高血圧症に関する服薬者の割合が高くなっています。

また、改善意欲がない人の割合が高い一方、改善意欲がある人の割合も高くなっており２極化しています。全体的に改善意欲の底上げや、生活習慣改善に向けて具体的にに取り組めるよう、運動面や食事面からフォローが必要です。

喫煙状況・飲酒頻度の割合は低い状況です。

服薬状況

項目	海津市国保	県	同規模保険者	国
服薬（高血圧症）	36.8%	32.9%	35.5%	33.6%
服薬（糖尿病）	7.0%	7.5%	8.3%	7.5%
服薬（脂質異常症）	23.5%	24.0%	23.9%	23.6%

喫煙状況

喫煙	12.5%	12.8%	13.5%	14.2%
----	-------	-------	-------	-------

運動習慣

1回30分以上の運動習慣なし	63.9%	61.2%	62.0%	58.8%
1日1時間以上運動なし	54.3%	50.2%	45.1%	47.0%

食事習慣

週3回以上就寝前2時間以内夕食	13.4%	13.1%	14.5%	15.5%
週3回以上夕食後間食	11.6%	12.2%	12.0%	11.9%
週3回以上朝食を抜く	5.3%	5.6%	6.9%	8.7%

飲酒頻度

毎日	21.2%	24.1%	25.3%	25.6%
時々	15.6%	20.3%	20.3%	22.1%
飲まない	63.1%	55.7%	54.4%	52.3%

生活習慣改善

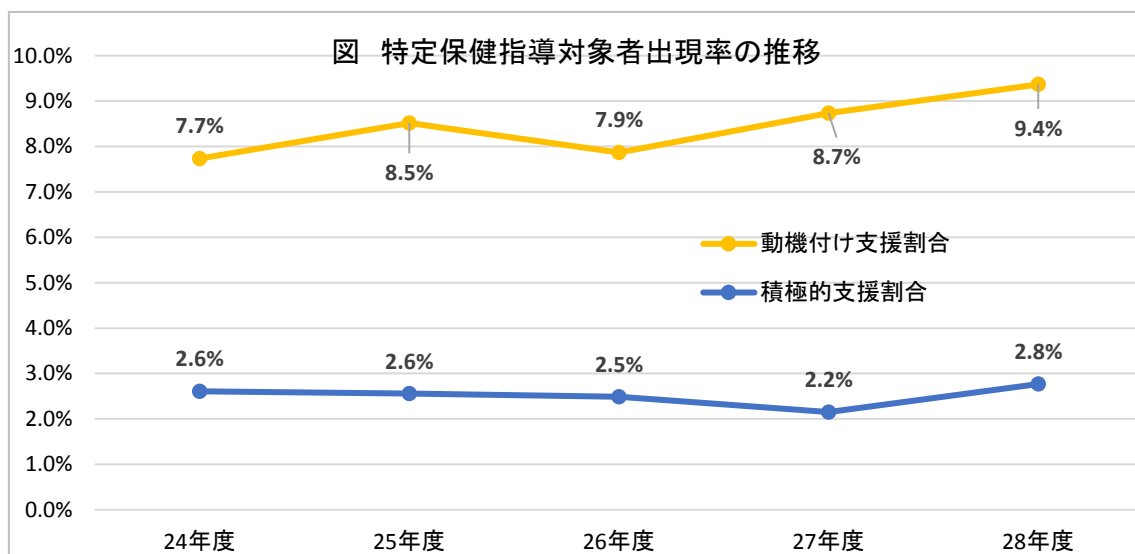
項目	海津市国保	県	同規模保険者	国
改善意欲なし	36.4%	33.4%	33.5%	30.7%
改善意欲あり	28.0%	24.1%	27.6%	27.3%
改善意欲あり かつ始めている	10.0%	15.5%	11.0%	13.2%
取り組み済み 6か月未満	7.9%	7.9%	7.3%	8.1%
取り組み済み 6か月以上	17.7%	19.1%	20.7%	20.8%

資料 国保データベースシステム(H28 年度)

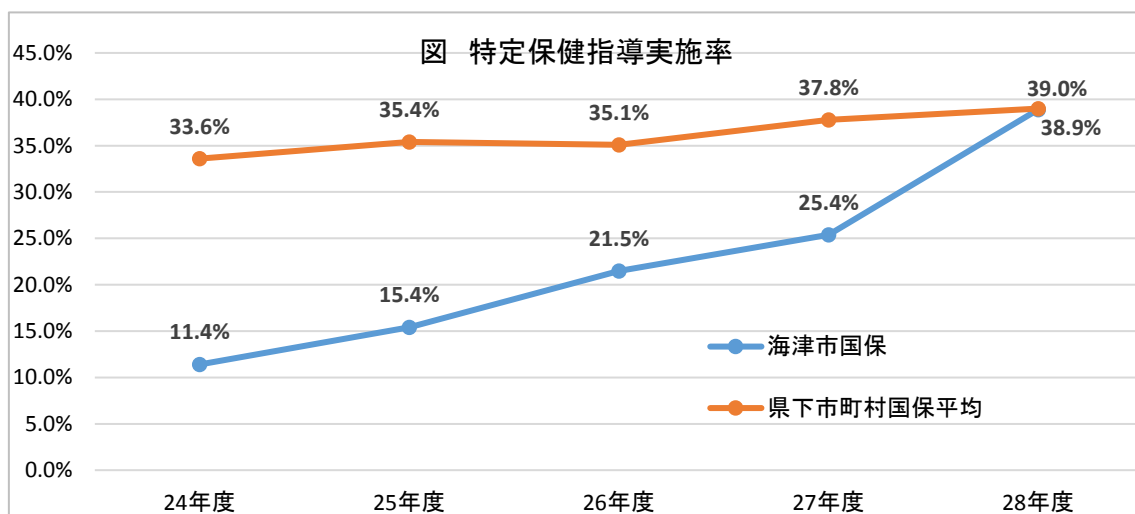
9. 特定保健指導の実施状況

平成 28 年度の特定保健指導実施率は 38.9%と上昇傾向にあり、県下市町村国保平均とほぼ同率の状況です。特定保健指導対象者の出現率は動機付け支援はやや上昇傾向にあり、積極的支援は一定の水準で推移しています。

生活習慣の改善意欲割合が低いことから、健康づくりや健康保持増進への意識が低く、特定健康診査受診率が低迷し、特定保健指導につながりにくいのではないかと考えられます。今後、広く健康意識の向上を図り、特定保健指導へつなげることが必要です。



資料 国保データベースシステム(H28 年度)



資料 国保データベースシステム(H28 年度)

第4章 介護の状況

1. 介護認定者の状況

本市の65歳以上の高齢者人口は、平成29年4月1日現在10,780人、高齢化率は30.3%で増加傾向です。これに伴い、要介護認定者数も年々増加しています。一方、要介護者を支える40～64歳の人口は減少しており、要介護者1人を平成20年度では約10人で支えていたものが、平成29年度には約7人で支えている状況になっています。

今後は、高齢化の進展により、要介護認定者の増加とともに高齢者の医療費も増加すると考えられます。

単位：人

	40～64歳の人口		65歳以上の人口		
		うち認定者数		うち認定者数	認定率（％）
平成25年度	13,375	53	9,512	1,407	14.8
平成26年度	13,081	52	9,891	1,449	14.6
平成27年度	12,821	49	10,194	1,566	15.4
平成28年度	12,492	47	10,514	1,619	15.4
平成29年度	12,106	45	10,780	1,723	15.9

資料 高齢介護課(認定者数・認定率)・市民課(人口)

2. 介護認定者における有病状況

本市の介護認定者における有病状況は、高血圧症・心臓病・脳疾患が県・同規模保険者・国と比べ割合が高くなっています。筋・骨格系疾患の有病率が50%を超えているため、運動器の機能低下予防と健康管理が必要です。

	糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	がん	筋・骨格系疾患	精神疾患
海津市	22.3%	58.1%	26.9%	67.5%	29.0%	10.9%	52.4%	36.8%
県	25.8%	55.1%	29.5%	64.8%	26.5%	10.0%	55.6%	37.4%
同規模	22.3%	54.6%	28.3%	62.4%	27.9%	10.3%	54.0%	37.8%
国	21.9%	50.5%	28.2%	57.5%	25.3%	10.1%	49.9%	34.9%

資料 国保データベースシステム(H28年度)

第5章 保健事業の状況

1. 保健事業の実施状況

<平成 29 年度の取り組み>

●健康診査

事業 分類	事業名	内容	対象		事業評価	課題と考察
			年齢	対象者		
健康診査	生活習慣 病健診	メタボリックシンドローム に着目した健診と結果説明を医療機関に委託し	30～39 歳	海津市民	健診実施期間が長く、休日や夜間も受診でき、受診しやすい環境にある医療機関で結果の説明を受けるので、治療に結びつきやすい	受診率が伸びない 未受診者 対策の実施
	特定健康 診査	実施	40～74 歳	海津市国民健康 保険加入者		
	ぎふ・すこやか健康診査	結果をもとに、健康状態の把握、保健指導対象者の把握を行う ※ぎふ・すこやか健診は結果説明なし	75 歳以上	後期高齢者医療 対象者		
	人間ドック 助成金交付	健康の保持・増進を図り、生活習慣病の早期発見や健康度を知るため、医療機関及び健診機関において人間ドックを受けた者に対して助成金を交付	40 歳以上	海津市国民健康 保険加入者で、市税に未納がない方 (他で費用助成を受けていない場合)	事業の周知を図り、申請数が増加傾向である	引き続き、 周知が必要
	各種検診	がん検診(肺・胃・大腸・乳・子宮・前立腺がんリスク)、・肝炎ウイルス、結核検診、脳検診、骨検診を行い、早期発見・早期治療につなげる	30 歳以上	海津市民 (子宮 20 歳以上、脳、肺・結核 40 歳以上、前立腺 50 歳以上、胃がんリスク 74 歳まで)	個人通知・市報・ホームページ・メール配信・受診勧奨訪問、がん検診受診勧奨サイト等により受診勧奨に努めた	受診率が伸びない 初回受診者が増加するように勧奨が必要
	8020 歯科 健診	歯・喪失歯の状態(むし歯)や、歯肉の状態のチェックを行い、適切な口腔保健行動を実践する人の増加を目指す	30～74 歳	海津市民	健診実施期間が長く、休日や夜間も受診でき、受診しやすい環境にある 治療に結びつきやすい	受診率が伸びない 引き続き、 周知が必要
	ぎふ・さわやか口腔 健診	歯・歯肉の状態や口腔清掃状態等のチェックを行い、口腔機能低下や肺炎等の疾病を予防し、健康増進を図る	75 歳以上	後期高齢者医療 対象者		

●健康教育

事業分類		事業名	内容	対象		事業評価	課題と考察
				年齢	対象者		
健康教育	二次予防	特定保健指導	メタボリックシンドロームに着目し、対象者の個別性を重視して、生活習慣の改善に重点を置いた指導を行うことにより、行動変容を促す	40～74歳	特定健康診査の結果から、腹囲等を第一基準として、血糖・血圧・脂質・喫煙のリスクが重複している人	家庭訪問で指導を実施しているため、生活環境を把握し、実践的な指導を行っている 保健指導率は増加傾向である	不在時は、案内をポストに投函しているが、その場合は、保健指導につなぐににくい
		サイズダウン教室	内臓脂肪による肥満者を対象とし、「栄養」、「運動」等生活習慣の見直しなど科学的根拠にもとづいた生活改善ができる教室を実施する	30～65歳程度	腹囲基準値以上（男性 85cm・女性 90cm）又は BMI24 以上	2 クール実施し、生活習慣の見直しにより、ほぼ全員に体重減少が認められた	参加者数が少ない
	一次予防	健康月間の実施	個人又は団体が積極的な健康づくりに取り組むきっかけとして、健康測定や運動、食の体験、相談を実施するイベント:健康展の開催	全て	海津市民	自らの健康を考える月間としての周知に重点を置き、市内の健康関係施設にのぼり旗を設置し、啓発に努めた 市民健康講座を2回開催し、健康づくりに関する情報提供に努めた	講座の参加者が少ない
		きらめきウォーキング	ウォーキングする機会を提供し、運動習慣の定着と仲間づくりを促進する	全て	海津市民	毎月実施の通常コースに加え、出張版として市内各所のおすすめコースを紹介した 実施日をくらしのカレンダー・市報・メール配信にて周知した	参加が少ない 引き続き、周知が必要
		健康レシピの紹介	市報・ホームページに健康情報や健康レシピ、地産地消レシピを掲載し、広く市民に情報提供し食生活の改善を図る	全て	海津市民	減塩を基本としたレシピと管理栄養士の健康情報を市報・ホームページに掲載し、広く市民に啓発できた	引き続き、健康情報の啓発に努める

事業分類		事業名	内容	対象		事業評価	課題と考察
				年齢	対象者		
健康教育	一次予防	出前講座	保健師や管理栄養士が市民グループ・サークル・学校等団体の要望により地域に出向き、健康づくりに関する講座を実施する	全て	海津市民	市民の要望により、各地域での健康づくり講座を開催した依頼される内容に加え、季節や話題になっている健康話題を取り入れ、情報提供に努めた	引き続き、対象者に応じた健康情報の啓発に努める
		介護予防普及啓発事業	介護予防の普及啓発を広く行い、生活機能の低下を予防し、介護状態に陥ることを防ぐ。そのために必要な栄養改善・口腔機能・認知症・運動等に関する教室を実施する	65歳以上	海津市民	介護予防に資する基本的知識の普及啓発を図るパンフレット等を作成し、実習を通して、心身機能の改善や生活環境の調整等高齢者がより自立した生活を送ることができるよう支援した	徒歩で通える所で介護予防の教室の開催や、住民主体の通いの場等活動につながるよう努める
		地域介護予防活動支援事業	介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための研修や、介護予防に資する地域活動組織の育成・支援する介護予防リーダー養成講座を実施する	概ね65歳以上	海津市民	高齢者が容易に通える範囲内にある通いの場で住民主体の体操活動等を展開する介護予防リーダーを養成し、介護予防活動の担い手を育成した	引き続き養成し、介護予防・社会参加・地域貢献ができる高齢者を増やす

●健康相談

事業分類		事業名	内容	対象		事業評価	課題と考察
				年齢	対象者		
健康相談	一次予防	健康相談	保健師や管理栄養士による健康に関する相談を随時実施する	全て	海津市民	毎月1回、体組成測定・お食事相談日を設置し、健康相談を実施した	引き続き、周知が必要

●啓発・通知

事業分類	事業名	内容	対象		事業評価	課題と考察
			年齢	対象者		
啓発・通知	健康づくりに関する情報発信	健康づくりに関する情報を市報かいづに毎月掲載、メール配信、ホームページ掲載、健康展の実施、がんリスクチェックサイトの運用を行う	全て	海津市民	健康づくりに関する強化月間を市報・ホームページに掲載、メール配信・健康展等で周知を図った	引き続き、市報・メール配信を活用し、健康情報の啓発に努める
	医療費通知	医療機関を受診した内容を通知し、健康意識の向上と医療費の適正化を図る	全て	海津市国民健康保険加入者	年6回(偶数月)実施し、医療費負担に対する意識の向上に努めた	医療費負担に対する意識を持つことを目的に、引き続き実施
	後発医薬品差額通知	後発医薬品へ切替えた際の差額を通知し、医療費の適正化を図る	40～74歳	海津市国民健康保険加入者	後発医薬品差額通知により、切替人数が増えた	引き続き、後発医薬品差額通知を行う

第6章 医療と健診結果からみる課題

1. 健康課題

- ①他の自治体と比べ、海津市国保では40～64歳の被保険者割合が低くなっています。若年者は社会保険等に参加している傾向にあります。
- ②死因として、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患等生活習慣病に関する疾病の割合が高くなっています。特に心疾患が高くなっています。
- ③海津市国保における平成28年度の一人あたり医療費は、県内平均以上となっています。
- ④海津市国保における医療費は、生活習慣病に起因する疾病（高血圧症・糖尿病・慢性腎不全等）が大部分を占めています。
- ⑤海津市国保における外来医療費では、高血圧症・糖尿病の医療費が特に高額になっています。
- ⑥健診結果より血圧が高い傾向にあります。血圧に関する服薬状況も割合が高いため、発症及び重症化予防の取り組みが必要です。
- ⑦生活習慣病の有病割合は、男女ともに50歳代になると急増しています。特に女性の有病割合が高くなっています。
- ⑧特定健康診査受診率と特定保健指導実施率が低い状況です。
- ⑨メタボ該当者・メタボ予備群・腹囲の割合が県と比較し、割合が高くなっています。
- ⑩運動習慣がない、生活習慣の改善意欲が低い等健康意識が低い人の割合が高くなっています。
- ⑪介護認定者においては、高血圧症・心臓病・脳血管疾患の有病割合が高くなっています。
- ⑫介護認定者においては、筋・骨格系疾患の有病率が50%を超えているため、運動器の機能低下予防も必要です。
- ⑬8020 歯科健診受診率は低下しています。また、受診者のうち、歯周疾患や未処置歯がある人の割合が高くなっています。

2. 保健事業の取り組みからの課題

- ①特定健康診査受診率は上昇傾向にあるものの、依然として県内平均より低く、特に若年者（40 歳代、50 歳代）の受診率が低い状況にあります。
- ②特定保健指導は上昇傾向にあり、県内平均に近づきましたが、特定保健指導の目標値より低くなっています。
- ③各種検診・生活習慣病健診・8020 歯科健診の受診率が、伸び悩んでいます。
- ④健康意識に個人差が大きく認められます。
- ⑤テレビやインターネット等より入手した偏った情報による生活改善を行っている人がいます。（健康相談や特定保健指導時に聞き取りより）

3. 海津市における現状課題のまとめ

本市は高齢化が進んでおり、海津市国保についても被保険者構成の高齢化が急激に進んでいます。それに伴い、医療費も増加し続けています。

海津市国保における現状分析・健康課題からみても、高血圧症・糖尿病・肥満等生活習慣病関連のものが死因や医療費の大部分を占めています。高血圧や高血糖が続くと血管を傷つけ動脈硬化が起こり、心筋梗塞や脳血管疾患・腎不全による人工透析等の合併症を引き起こします。

海津市国保では、今日まで生活習慣病の早期発見・重症化予防を目的に特定健康診査・特定保健指導を実施してきました。しかし、現状、特定健康診査受診率は、県平均と比較しても低い状況です。特定保健指導実施率は、県平均までは上昇してきましたが、特定保健指導の目標値 60%には達していません。

今後は、生活習慣病の早期発見・重症化予防に重点的に取り組むことが必要です。まずは、被保険者の健康状態の把握・分析に努める必要があります。特定健康診査の受診率・特定保健指導の実施率を上昇させ、更には被保険者の健康意識の向上・歯周病等歯の健康から生活習慣病対策を図る必要があります。

また、介護認定者の生活習慣病有病者の割合が高いことから、介護予防の観点からも生活習慣病の早期発見・重症化予防は有効であると考えられます。

第7章 目的・目標及び保健事業の実施内容

1. 最終目的

心豊かな生活を営むうえで、生涯にわたり健康であることは重要です。そのためには、一人ひとりが各自の健康課題を正しく認識し、主体的に生活習慣の見直しや健康づくりに取り組むことが必要です。健康で笑顔が輝く健やかな生活が送れるよう生活習慣病の発症及び重症化予防により、健康寿命の延伸を目指します。

そのために、必要な健康づくりに関する情報提供や市民健康講座・出前講座を行い、市民の主体的な取り組みを支援します。

2. 重点保健事業

本市の国保を取り巻く現状と課題を踏まえ「生活習慣病予防」を大きな保健事業の柱とし、保健事業を展開していきます。

生活習慣病予防の第一歩は、自分の健康状態を知ることです。特定健康診査を受診し自分の健康状態を把握することにより、疾病リスクを軽減する取り組み・健康保持増進を促し、健康意識の向上を図ります。

また、特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率がまだまだ低いことから、現在の取り組みを強化・継続していくこととし、特定健康診査の受診率向上及び特定保健指導の実施率向上を重点保健事業とします。

保健事業は、効率的かつ効果的なものとなるようPDCAサイクルにより取り組んでいきます。

3. 保健事業の実施

重点保健事業① 特定健康診査

現 状 課 題	- 平成 28 年度受診率は 32.5% - 受診率は上昇傾向にあるものの、依然として県平均よりは低い - 若年層（40～60 歳）の受診率が低い - 男性の受診率が低い
目 標	受診率を県平均以上とする 年度目標 ●2018 年度 35% ●2023 年度 60% 健診結果説明指導率を 100%とする 年度目標 ●2018 年度 98% ●2023 年度 100%
対象者	海津市国民健康保険被保険者（40～74 歳）
事業内容	健康診査の実施、健診医による結果説明、未受診者受診勧奨
実施体制	- 健康診査（結果説明含む） 市内医療機関（医師会）に委託及び西美濃厚生病院に委託 - 未受診者受診勧奨 コールセンター業務委託、市職員により実施
実施期間	6 月～翌 2 月
実施場所	市役所、医療機関、市内各地
評価指標	法定報告値による評価
実施方法	①健康診査

市内医療機関において個別健康診査を実施する。

受診券発送時期	5 月下旬に対象者全員に発送
実施場所	市内医療機関
検査項目	質問票、身体測定（身長・体重・BMI・腹囲）、理学的検査（身体診察）、血圧測定、血中脂質検査（中性脂肪・HDL コレステロール・LDL コレステロール）、肝機能検査（GOT・GPT・r-GTP・アルブミン）、血糖検査（空腹時又は随時血糖・ヘモグロビン A1c）、尿検査（糖・蛋白・尿潜血）、貧血検査（赤血球数・血色素数・ヘマトクリット値）、血清尿酸、血清クレアチニン、eGFR 詳細な健診：心電図検査、眼底検査 ※ は国が定めた項目以外に追加実施する項目
負担金	500 円 ※40・45・50・55・60・65・70 歳は無料
広報活動	市報・ホームページ・メール配信・くらしのカレンダー

その他、西美濃厚生病院での農協健（検）診、助成された人間ドック、職場健診の健診結果を入力し、実施とみなす。

②健診結果説明

受診医療機関で健診結果説明を100%実施する。

実施方法	案内文書、市報、ホームページ等で健診結果説明を受けるように周知する
実施時期	5月～3月
実施内容	健診結果説明を受けることで、健診結果を生活に活かして健康管理に役立てることを周知する 受診医療機関から受診者への案内や連絡を徹底する

③未受診者受診勧奨

コールセンター業務委託により、電話で受診勧奨する。

実施方法	対象者リストから電話番号判明者に架電する
実施時期	7月
実施内容	未受診の理由を聞き取り、分析することにより実態を把握し、未受診者対策につなげる また、他の検診等（がん検診や生活習慣病検診など）の受診勧奨も併せて行い、健康意識の向上を図る

④受診勧奨訪問

受診率の低い年代と健康保険が切替わる年代に、健診の受診勧奨を実施する。

実施方法	訪問
実施時期	9月～1月
実施内容	特定健診・がん検診の受診勧奨 既往歴・現病歴の確認 生活習慣の確認・指導等

⑤継続受診の勧奨

継続受診を促す受診勧奨はがきを送付する。

実施方法	勧奨はがき
実施時期	11月～12月
実施内容	過去2年間のどちらかで受診歴があり、当該年度の受診状況のない人に受診勧奨はがきを送付する 勧奨対象者をグループ分けして、効果的な内容を検討する

重点保健事業② 特定保健指導

現 状 課 題	- 平成 28 年度実施率は 38.9% - 実施率は上昇傾向にあるものの、依然として目標値よりは低い - 健康改善意欲の個人差が顕著（健診結果から保健指導に結びつかない） - 情報提供の充実 - 医療機関との連携による保健指導
目 標	実施率を県平均以上とする。 年度目標 ●2018 年度 40% ●2023 年度 60%
対象者	特定健康診査を受診した人で、特定保健指導の対象者選定基準にあてはまる人
事業内容	面談・電話・訪問による保健指導の実施
実施体制	市職員（保健師・管理栄養士）
実施期間	通年
実施場所	市役所、医療機関、市内各地
評価指標	法定報告値による評価

実施方法

①特定保健指導

主にメタボリックシンドロームに着目し、対象者の個別性を重視して生活習慣の改善に重点を置いた指導を行う。

	支援期間 ・頻度	支援内容	評価
動 機 付 け 支 援	- 初回面接 3 か月以上経過後評価	対象者本人による気づき・目標設定を支援し、確実に行動変容を促す 特定健診の結果や生活習慣に関する調査結果を踏まえ、面接による支援及び実績評価を行う	面接 または郵送
積 極 的 支 援	- 初回面接 - 継続支援 3 か月以上経過後評価	特定健診の結果や生活習慣に関する調査結果を踏まえ、面接による支援及び行動計画の進捗状況に関する評価（中間評価）及び実績評価を行う	面接 または郵送

※測定（血圧・体組成）や、健診結果から必要な資料等を用いて指導を行う。

※サイズダウン教室参加を促し、参加の場合はグループ支援にて特定保健指導を行う。

②未実施者対策

健診結果が前回と比較して悪化した人、質問票により生活習慣改善の必要性が高い人、前回保健指導を受けてなかった人などを優先して、訪問・電話・ダイレクトメール等にてアプローチを行う。

重点保健事業③ 生活習慣病重症化予防

現 状 課 題	・ 高血圧は健診結果、医療費とも高い ・ 生活習慣病の有病割合が高い ・ 健康改善意欲の個人差が顕著（健診結果から保健指導に結びつかない） ・ 医療機関との連携による保健指導が必要
目 標	医療機関への受診勧奨を実施し、医療機関受診につなげる 年度目標 ●2018 年度 60% ●2023 年度 100%
対象者	特定健康診査を受診した人で ① 収縮期血圧 160mmHg 以上 ② 拡張期血圧 100mmHg 以上 ③ 空腹時血糖 126mg/dl 以上 ④ HbA1c 6.5%以上 ただし、生活習慣病で治療中の者を除く
事業内容	文書による医療機関受診勧奨の実施、必要に応じて電話または訪問
実施体制	市職員
実施期間	通年
評価指標	文書による返信とレセプトによる医療機関受診状況の確認

実施方法

①生活習慣病重症化予防の勧奨通知

対象者に対して、医療機関受診勧奨通知を送付する。

実施方法	受診勧奨文書
実施時期	通年
実施内容	特定健診受診者のうち、該当対象者に医療機関受診勧奨通知を送付 送付後にレセプトで受診の有無の確認 レセプトがない人に電話または訪問で医療機関受診勧奨

②糖尿病性腎症重症化予防プログラム

継続受診を促す受診勧奨はがきを送付する。

実施方法	海津市医師会と相談し、実施方法を検討 案内通知・電話・訪問により実施
実施時期	通年
実施内容	医療機関未受診者、糖尿病治療中断者及び糖尿病で通院中の人で、糖尿病性腎症を発症している人、また発症はしていないがそのリスクが高い人に対して、医療機関と連携して保健指導等を行う

第8章 計画の推進

1. 計画の見直し

計画の最終実施年度（2023 年度）に、2024 年度からの第 4 期海津市国民健康保険特定健康診査等実施計画の施策・評価指標との整合性を図り、評価・見直しを行うこととします。

2. 計画の公表・周知

より広く市民に周知を行い、市民一人ひとりの健康保持増進を意識づけることが重要であるため、「海津市ホームページ」等を通じて公表・周知を行います。

3. 事業運営上の留意事項

事業実施にあたっては、関係部署等との連携強化を図り、共通認識をもって実施します。

4. 個人情報の保護

個人情報の取扱いについては、個人情報の保護に関する法律及び海津市個人情報保護条例を遵守します。

5. その他、計画策定にあたっての留意事項

海津市国民健康保険特定健康診査等実施計画の策定趣旨を踏まえつつ、「海津市総合計画」、「かいづ健康づくりプラン」、「海津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」等と整合性を図り、実施施策等を検討します。



第 2 期海津市国民健康保険保健事業実施計画

発行年月：平成 30 年 3 月

発行：海津市

編集：健康福祉部 保険医療課

〒503-0695 岐阜県海津市海津町高須 515 番地

TEL：(0584) 53-1349 (直通)

FAX：(0584) 53-0443

E-mail：hokeniryo@city.kaizu.lg.jp
